令和２年３月 20 日発行

鹿児島県立博物館

鹿 博 だ よ り

No.101

サツマウツノミヤリュウ（下顎部）

2004 年に鹿児島県長島町獅子島でクビナガリュウの化石が発見されました。このクビナガリュウの体長は約６ｍと推定され，子どもだったとみられています。下顎（したあご）の保存状態がよく，国内のクビナガリュウでは初めてとなる舌骨が見つかっており，クビナガリュウの食事法の解明に役立つと考えられています。この化石は，鹿児島県を表す「サツマ」と発見者の宇都宮聡氏の「ウツノミヤ」を合わせた「サツマウツノミヤリュウ」の名称で呼ばれています。

「博物館の限りなき挑戦」

館長　　鈴木　敏之

「博物館」について，みなさんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。展示場に動物等の剥製や骨（化石）が並び，学術的で内容が難しい，お堅い，敷居が高い…。

当館は，「博物館法」に基づく登録博物館であり，南北 600 kmにわたる鹿児島の自然を紹介する博物館として，昭和 56 年に現在の場所（城山町）に開館しました。冒頭にご紹介した「博物館」のイメージを少しでも打破し，払拭すべく，県民をはじめ鹿児島を訪れた観光客など，すべての方が気軽に「入ってみよう」，「学びたい」，「また利用したい」と思えるような，いい意味で「敷居の低い」博物館づくりを現在，職員一丸となって取り組んでいるところです。

これまでの先人の地道な活動の積み重ねと，職員の意識や取組の変容に伴って，ここ数年で少しずつですが，来館者の増加とともに随所にプラスの変化が来館者の声や姿として見えてきました。

例えば，職員手作りのオブジェが来館者をエントランスでお迎えします。それらはカブトムシの巨大オブジェであったり，時には玄関横の外看板に張り付いたゴキブリの巨大オブジェであったりして，来館者の知的な好奇心や探究心をくすぐります。

今年度春に開催した企画展「輝く石の世界」では，キラキラ輝く水晶や色とりどりの鉱物に子どもたちだけでなく，老若男女幅広い年齢層の方々が熱心に展示資料に見入る姿も多数見られました。

秋の企画展「チョウに負けん蛾（が）」では，展示室の壁一面に蛾の標本を収めたドイツ箱が 111 箱も並んだ様子は圧巻で，来館者の声からも「蛾」の先入観を取り払えた企画展となりました。

また，チラシ配布や HP をはじめとした広報活動を現在，積極的に行っています。さらに，フェイスブックやツイッター等の SNS でいち早く発信して，博物館の現在の取組や情報を紹介しています。

これからも職員の知恵と創意工夫を結集し，収蔵庫に眠る貴重な資料を最大限に活用し，郷土鹿児島に根ざした，行列のできるような親しみやすい博物館づくりに取り組んでいきたいと考えています。

今後とも「博物館の限りなき挑戦」に注目いただくとともに，お一人でも，また，家族や友人とお誘い合わせの上，是非，御来館くださるようお願いします。

資料収集事業と企画コーナー

博物館の業務に「資料収集・保管事業」があります。これは，各地の動植物，岩石，化石等を収集し，県内の豊かな自然を記録するために行っているものです。令和元年の９月と 10 月に霧島市と志布志市でトリカブトの仲間を収集したことについて紹介します。

毒草として有名なトリカブトの仲間は，タンナトリカブトとハナカズラの２種が鹿児島県内に分布しています。どちらも，県内での生育地は限られ，一般の方々がほとんど目にしない植物です。今回は，収集した標本や写真を使って，企画コーナーを設置しました。

収集した資料の多くは，収蔵庫に保管され，県内外の研究者等に利用されています。それ以外にも，このように展示物としても活用し，鹿児島の豊かな自然を多くの来館者に紹介しています。

トリカブトの一種のハナカズラ

トリカブト類の企画コーナー(本館２階)

令和元年度に開催した企画展

県立博物館では，収蔵資料や調査研究の成果や児童生徒の研究記録等を活用して年間６回の企画展示を行っています。

令和元年度は「かがやく石の世界」（３月 23 日～６月９日），「あそびがいっぱい『たねランド』」（７月６日～９月８日），「チョウに負けん『蛾』」（９月 28 日～11 月 24 日），「錦江湾の深～い話」（12 月 21 日～２月 24 日）を開催しました。また例年，夏休みの児童生徒の研究を応援する「チャレンジ理科研究」，夏休みの成果を紹介する「理科に関する研究記録」も実施し，自由研究のヒントを提供することができました。

今後も企画展では，県内外の方々に鹿児島の自然や生活の中にある科学に楽しく触れられる機会づくりを工夫していきます。

企画展「あそびがいっぱい『たねランド』」

企画展「チョウに負けん『蛾』」

＜学ぼう郷土の自然 移動博物館事業＞

県立博物館では，郷土の自然を見つめ，科学する心や自然と共生する心を培うために，「移動博物館事業」を行っています。

令和元年度は 10 月 9 日に指宿養護学校，11 月 14 日～17 日に県庁，12 月 12 日～15 日に天城町にて開催しました。

【指宿養護学校】

体育館を会場に，剥製や標本など，約 3,000 点を展示しました。

展示会場

今回は，体験コーナーとしてストーンペインティングを実施しました。気に入った石を選び，思い思いの絵を夢中になって描いていました。大変好評だったので，来年度以降も実施していきたいと考えています。

ストーンペインティング

また，今回初の試みとして，今年度，実施した企画展「かがやく石の世界」と「あそびがいっぱい『たねランド』」の展示の一部も設置しました。美しい石の特徴を興味深く観察したり，どんぐりのたねを転がしたりしながら，種子発芽の仕組みを体験をとおして学んでいたようです。

【県庁】

県庁の 18 階を会場に，剥製や世界の昆虫標本などを展示しました。訪れた方々は，雄大な桜島や市街地が一望できる 18 階展望ロビーに並べられた展示物を興味深く観覧していました。

また，生きたヘビ・イモリにさわるコーナーは子どもたちに大人気でした。

生きたヘビをさわるコーナー

【天城町】

天城町防災センターを会場に，5,000 点を超える標本や剥製を展示しました。シカやイノシシなど身近な鳥獣や世界の昆虫などを展示したほか，徳之島の自然を紹介するコーナーも設けました。

12 月 12，13 日には，町内の全小中学校から，児童生徒が観覧に訪れ，職員が展示解説を行いました。その中で，「アマミノクロウサギを初めて見た」とか「徳之島にこんなクワガタがいるって知らなかった」という声が多く聞かれました。今回，地元の自然について目を向け，その豊かさに少しでも気づいていただけたら幸いです。

展示解説

展示紹介

アマミイシカワガエル

令和元年 11 月から，本館１階でアマミイシカワガエルの飼育展示を始めました。このカエルは斑紋が非常に美しく，「日本で最も美しいカエル」と呼ばれています。奄美大島の森林や渓流に生息しており，奄美大島の固有種として貴重なため，県天然記念物と国内希少野生動植物種の両方に指定されて，保護が図られています。

今回の展示が実現したのは，研究のために飼育・増殖を行っている広島大学両生類研究センターから，４頭を譲り受けることができたからです。広島大学から発送された翌日には当館に到着し，梱包を開けた際に４頭とも元気な様子を見て，安堵したことを覚えています。梱包のやり方を見ると，呼吸のための通気孔が開けられた容器に１頭ずつ個別に収められ，しかも温度・湿度が保たれるように最大限の工夫が施されていました。多大な協力をいただいた広島大学両生類研究センターの方々に，心から感謝を申し上げたいと思います。

保湿材入りの容器で運ばれ，到着した時の様子

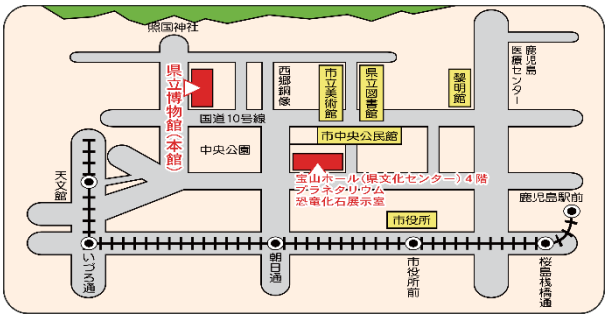
学芸室の窓から

県立博物館別館プラネタリウムでは１日３回の一般投影番組（年４作品）以外にも学習を目的として，幼稚園や小学校を対象にした学習投影を実施しています。今回は幼児を対象にした「幼児投影」をご紹介します。

幼いお子様をプラネタリウムに連れていくというのは，少し敷居が高いと思われる方が多いようです。「大声を出さないだろうか。」，「暗さに怖がったりしないだろうか。」などの心配をされるからだと思います。しかし，本館の幼児投影は泣いても，声を出しても大丈夫です。通常は幼稚園や保育園などを対象とした番組ですが，博物館まつりなどのイベントやクリスマスキッズ投影などで投影していますので是非イベント情報を確認して，御相談ください。幼児投影は季節に合わせて４作品があります。

「幼児投影プログラム季節の星座解説と星物語」

（博物館別館プラネタリウム　TEL099-210-7353）

春編「わがまま姫」「くまになった親子」
夏編「七夕物語」「オルフェウスの竪琴」
秋編「かぐや姫」「ペガススの誕生」
冬編「サンタクロースのお話」「ハトになった七人姉妹」

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853　鹿児島市城山町１番１号
TEL 099-223-6050　FAX 099-223-6080
https://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/
Facebook: https://www.facebook.com/kagohaku/
Twitter: https://twitter.com/kagohaku